

報告第1号

2023年度事業報告

中期目標「心をつむぐ あしたを織る」の3年目となる2023年度は、旧本館の解体工事が終了することから、その跡地に整備する緑化公園（Collina Naturale）と金属加工のものづくり拠点「金 Koba」の活用に向けた準備を進めました。また、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、ボランティアがより積極的に社会に向けた活動を展開できるよう、グループと活動の目的などを共有し、SDGsとも紐づけた、4つの公益目的事業を、ボランティアとともに進めました。

公益目的事業（1）地域の健全な発展を図るための事業

1 ものづくり事業

ア ものづくりプロジェクト

ものづくりをテーマにしたイベント等を開催し、ものづくりの魅力を広く県民に知ってもらうとともに、活動拠点の整備やボランティア機会の提供、紹介などものづくりボランティアの育成・支援を図るために以下の事業を実施いたしました。

- ・金属加工のできるものづくり拠点「金 Koba」が12月に完成し、ものづくりボランティアによる製作活動ができるように設備や道具の整備を行いました。
- ・ボランティアが主体となって、「羅織」の伝承活動を進めました。
- ・ボランティアが主体的にからくり作品の製作に取り組めるよう製作環境を整備し、さらに豊田市で開催されたラリージャパンのPRを目的としたからくり作品を製作し、豊田市のイベント等にて広くからくり作品に触れていただく機会を設けました。

2 環境事業

ア 地球緑化プロジェクト

広く県民から公募し、あすてに登録されたボランティアが、砂漠化の進む中国内モンゴルなどで植林活動を行ったり、イベントの開催を通して、県内で地球緑化に携わる団体の紹介や広く県民に地球緑化活動の大切さを伝えるために以下の事業を実施いたしました。

- ・あすての本館跡地に整備する緑化公園（Collina Naturale）の基本計画を、ボランティア有志による実行委員会を設立しあすてスタッフのコーディネートのもと立案しました。また、12月以降は、運営委員会を組織し、一部公園予定地にボランティアとともに芝桜の植栽と畑の整備を始めました。
- ・中国内モンゴルでの植林活動は、コロナ禍以降、日本人が参加する形での植林活動は行っていませんが、実施から10年目となる2023年7月に理事長が植林地を訪ね、今後は現地主導での植林活動の継続を確認しました。

イ 環境保全プロジェクト

豊田市内の山林や竹林で間伐作業を行い、その間伐材や竹を使って製品を作り福祉施設等へ寄贈する。その他、地域の清掃活動や花壇づくりを通して地域の環境美化に寄与するために以下の事業を実施いたしました。

- ・企業や団体の寄付をもとに、あすてスタッフがコーディネートしてものづくりボランティアが豊田市産の間伐材（杉、檜）を活用してベンチや積み木を製作し、豊田市内のこども園に4脚、県内の福祉施設に10脚、碧南市内の保育園に24脚、その他豊田市内の公共施設に5脚と積み木などを寄贈しました。
- ・年間を通して、ボランティアが主体となって、間伐した竹を使った竹炭づくりなどを行いました。

3 福祉事業

ア 地域支援活動

一般県民から公募し、あすてに登録されたボランティアが主体となって、高齢者向けの講座（体操や絵手紙体験など）や子育て中のお母さん対象の講座（アート体験など）を行ったり、地域の福祉施設で慰問演奏を行うために、以下の通りコーディネートしました。

- ・高齢者が中心となった絵手紙や布草履づくりなどの講座を年間を通して開催しました。
- ・弦楽やチェロ、太鼓、土笛のグループが、小学校や福祉施設、こども食堂、交流館などで、年間を通して 20 回を超す慰問演奏を行いました。

イ チャリティー活動

一般県民から公募し、あすてに登録されたボランティアグループが主体となって、ベルマークなどの募金・収集活動やチャリティーコンサート、バザーなどを開催し、その収益を難民や災害の被災者などに支援するために、以下の事業をコーディネートしました。

- ・あすてを会場に、グループが主体となったチャリティーバザーを年 6 回開催いたしました。
- ・あすてランチ、あすてカフェを年 60 回程度開催しました。

公益目的事業（2）国際社会の健全な発展を図るための事業

1 国際交流事業

ア 文化交流

外国人と日本人が交流会や文化体験会等を通じて、互いの文化を理解し、違いを認め合える機会をつくるために以下の事業を実施しました。

- ・華豊の友との共催事業として、12 月 23 日に「国際フェスティバル 2023」を豊田市福祉センターで開催し、世界各国の歌や踊りを披露しました。（14 ヶ国、14 団体、140 名出演。観客 450 名）

2 国際協力事業

ア 国際支援

カンボジアでの水質浄化活動と国際協力団体との連携による「世界の今」を知ってもらうためのイベントを実施する予定でしたが、コロナ禍につきカンボジアでの活動、イベントは実施できませんでした。

3 多文化共生事業

ア 異文化理解

外国人が日本人とともに日本語や日本文化の学習、体験を行う機会をつくるために、以下の事業をコーディネートしました。

- ・グループが主体となって、日本語の教室を年 40 回程度開催しました。また、中国語の母語保持教室も年 30 回程度開催しました。

公益目的事業（3）未来につながる担い手の育成を図るための事業

1 担い手育成事業

ア 担い手づくり

地域の技術者が青少年にクルマづくりを教えたり（クルマづくり究めるプロジェクト）男性の保育士が子育て講座を開催したりする機会を提供し、また、企業の社員を対象にボランティア研修の機会を提供するために以下の事業を実施しました。

- ・豊田市と協働で「クルマづくり究めるプロジェクト」開催しました（毎週土曜日年 30 回程度実施。10年目の集大成事業として4チームに分かれてそれぞれの特徴をいかして4台のパブリカをレストア。10年間のボランティア延べ人数 2,351 名。子どもの参加延べ人数 971 名。2024 年度からは新たな事業として「丘 KOBA プロジェクト」を実施予定）。
- ・9月24日に、からくりの技術を子どもたちに伝えるための「未来学校」を開催し、6名の子どもたちがからくり製作を学びました。

2 チャレンジ事業

ア 新企画創出推進

青少年が主体的に夢に挑戦するために場の提供や助言、相談対応などを行いました。

公益目的事業（4）豊かな人間性を涵養するための事業

1 支援事業

ア 啓発

ボランティアへの意識向上につながる研修や集会を以下の通り実施いたしました。

- ・あすてに登録したボランティアが一堂に会し、新年度の事業についての理解を深める会「はじめの会」を4月1日に開催しました。（28グループ 39名）
- ・あすての設立記念日にあわせ、あすての理念や事業を理解してもらうための集会「あすての日」を12月10日に開催しました。（62名参加）

イ 活動支援

活動場所の貸与を行いました。

- ・登録グループ数：35グループ 登録延べ人数：540名

ウ 相談対応・指導

年間を通してボランティアの相談にスタッフが対応し、さらにグループのヒアリングを通して、グループの課題を共有しました。

2 広報事業

ア 広報

ホームページおよびフェイスブックの運用、あすての年間記録としてのあすてレポートの作成、年3回のあすて通信「むすび」の発行などを通し、あすての事業やボランティア活動の広報を行いました。